

# 平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	経済部参事(農業総合支援センター担当)	直通電話	66-3345	事業コード	501011001	課内	7	作成日	平成15年9月4日
	担当者		吉田 恵	担当課長	桜田雅人	担当部長		工藤厚志	

## 1 事業のアウトライン

1) 事業名	クリーン農業推進事業 (農業総合支援センター)	開始年度	H12	終了年度	未定								
		最近の事業内容見直し年度											
2) 総合開発計画での事業体系	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">施策コード</th> <th style="width: 90%;">大項目 / 小項目 / 細項目</th> </tr> <tr> <td>5010110</td> <td>農業・水産業の振興 / 農業の振興 / その他</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>					施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目	5010110	農業・水産業の振興 / 農業の振興 / その他				
施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目												
5010110	農業・水産業の振興 / 農業の振興 / その他												
3) 個別計画での位置付け	石狩市農業振興計画 (クリーン農業に意欲的に取り組むグループを支援)												

## 2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	消費者に安全・安心な農産物の提供と環境に優しい農業の取り組み
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	農産物生産において、今までの農薬や化学肥料の使用を減らすために生産者の意識を高められるように減農薬・減化学肥料栽培の取り組みをする
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	<p>市は、次の事業を行う支援センターに事業費の1/2 を負担している。</p> <p>今までどおりの農薬や化学肥料の使用での栽培と減農薬・減化学肥料による栽培との比較をする農家に支援する。誘蛾灯や粘着版を使用して、殺虫剤の使用を減らす導入試験を行う農家に対して支援をする。</p> <p>支援センターが農協の広報誌等でクリーン農業に対する啓蒙活動を行う。</p> <p>北海道が開発した「クリーン農業技術」を導入して減農薬・減化学肥料により生産された、よりクリーンな農産物を表示することで道産農産物の優れた点をアピールする北海道独自の表示制度「北のクリーン農産物表示制度(イエス! クリーン)」の取得に向けて、農協、農業改良普及センターなどの関係機関と連携して相談、指導を行う。</p>
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づく計画認定者(エコファーマー)の推進 エコファーマー:法に基づき、土づくり、減農薬、減化学肥料に取り組む環境保全型農業を推進するとして、都道府県知事 が認定した生産者の愛称
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	輸入農産物の残留農薬問題や無登録農薬問題等で、消費者の農産物に対する不信から食の安全、安心が一層求められている。エコファーマーの認定や北のクリーン農産物表示制度「イエス・クリーン」の取得は他の市町村でも積極的に取り組んでいる。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	石狩市農業総合支援センター推進委員会(農業関係機関・団体、消費者協会等)に毎年、事業についての意見を聞いている
7) 評価中間公表への市民意見	なし

## 3 事業に投入した行政資源

項 目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)	
1) 直接事業費(千円)	0	180	224	223	負担金	224	
2) その他の間接経費(千円)							
3) 従事正職員の人件費(千円)	986	1,990	1,977				
総事業費(1~3の合計;千円)	986	2,170	2,201			H14 主な特定財源の内訳	金額(千円)
総事業費中の一般財源(千円)	986	2,170	2,201				
市民一人当たり一般財源使用額(円)	18	39	39				
事務に従事した正職員のべ人数	0.12人	0.24人	0.24人				

## 4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
栽培比較を行った農家数(戸)	目標値	5	5		目標値は農家に対して栽培依頼をした農家戸数 実績値は実際に栽培比較を行った農家戸数
	実績値	4	4		
	達成率	80.0%	80.0%		
栽培比較を行った作物数(品目)	目標値	5	5		目標値は1農家1品目の作物として設定 実績値は実際に栽培比較を行った作物数
	実績値	5	5		
	達成率	100.0%	100.0%		
PR回数(回)	目標値	2	2	2	農協広報誌によるクリーン農業のPRを掲載した回数
	実績値	2	1		
	達成率	100.0%	50.0%		

## 5 事業の成果

事業名: クリーン農業推進事業・(農業総合支援センター)

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
エコファーマー認定農家数(戸)	目標値			8		目標値はミニトマト生産者の農家数 実績値はエコファーマーに認定された農家数	北海道知事の認定
	実績値			8	目標レベル		
	達成率			100.0%			
	最終目標	年度に					
イエス・グリーン登録生産団体数(団体)	目標値				1	目標値はイエス・グリーンに取り組もうとした生産団体数 実績値は実際に登録された生産団体数	北海道グリーン農業推進協議会での登録
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

## 6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	栽培比較を行った農家個数は目標に達しなかったが、クリーン農業の取り組みとしてエコファーマーの認定を8戸の農家が取得できたこと、また次にイエス！クリーンの取得に向けた取り組みが始まっており概ね良好である。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	消費者の関心の高い安全・安心な農産物の生産及び環境保全型農業は、通常の農業や化学肥料の使用による慣行農業から減農薬・減化学肥料への取り組みとして農業者集団がエコファーマーの認定やイエス！クリーンの認証取得という方向に向かっており、この事業は有効であり、また全市民的な取り組みにするためにも必要である。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	この事業も市と農協の負担金で行っているが、クリーン農業の推進という大きな課題は農業者だけでの達成は不可能であり、農業集団や地域及び関係機関・団体が連携しなければ達成できない。例えば、イエス！クリーンの認証取得も農業集団の取り組みに対して関係機関・団体が構成する「グリーン農業推進協議会」を設置し、指導体制ができていくことが条件としたシステムであることから、市の関与は当然であり妥当性がある。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	クリーン農業の取り組みは途に付いたばかりであり、農家の意識も次第に高まり、一部の生産集団がエコファーマーの認定を取得し、次はイエス！クリーンの認証を受けるべく準備中である。また、他の地域では特別栽培農産物生産に取り組む動きもある。こうした農業者の取り組みは、石狩の農産物が安全・安心であるという観点から市民にとって有益であり、この事業は極めて妥当である。				

## 7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	B	[最終評価]	B (前年度)
	8戸の農家がエコファーマーの認定を受けたことや農業集団が「イエス！クリーン」の認証取得や地域で「特別栽培農産物」の認定取得に向けた取り組みは評価に値するが、全市民的な取り組みにまでには至っていないことから良好とした。		課長評価を了承する。	

## 8 今後の方向性・課題

担当課長評価	クリーン農業の推進は、これからであり農業者の意識づけや技術の確立等関係機関・団体の連携により営農集団、地域及び全市民的な取り組みへと広げ、栽培技術の確立など今後も支援が必要である。
最終評価	これからの農業のあるべき姿として、安全・安心の農作物の生産と環境を意識した取り組みなくしては市民に理解を得られないと考える。本事業による農業者の意識改革や栽培技術の確立など今後はさらに拡充を図るべきと思考する。

## 9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合		
上についての説明	休・廃止		

**(付表)**  
**補助・負担金等事業内容整理表**

担当部課： 経済部参事(農業総合支援センター担当)  
 事業名： クリーン農業推進事業・(農業総合支援センター)

1 補助・負担相手方の概況

補助・負担金名称	石狩市農業総合支援センター負担金
支出相手方(名称、代表者、構成員)	・名称 石狩市農業総合支援センター ・代表者 伊藤英雄 ・構成員 石狩市、石狩市農業協同組合、石狩市農業委員会
活動(事業)目的	農業経営効率化の推進や農業担い手対策を行うとともに都市近郊型農業を推進するなど、各種支援事業を実施し、新たな地域農業システムを構築する。

2 補助・負担相手方の財政状況等

(単位:千円)

		H12決算		H13決算		H14決算		H15予算	
		全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象
歳出決算 (予算)状況	減農薬・減化学肥料栽培モデル事業助成			360	360	360	360	300	300
	クリーン農業技術導入試験事業助成			0	0	87	87	145	145
	歳出合計			360	360	447	447	445	445
歳入決算 (予算)状況	石狩市農業総合支援センター負担金			180	50.0%	224	50.1%	223	50.1%
	石狩市農業協同組合負担金		市の補助負担金への依存度	180	市の補助負担金への依存度	223	市の補助負担金への依存度	222	市の補助負担金への依存度
	歳入合計			360		447		445	
補助・負担対象経費の内容	全額								
補助・負担金額の算定方法	市と農協が1/2の負担割合となっている								

3 補助・負担相手方の活動状況

活動結果を示す指標名	H12実績	H13実績	H14実績	H15目標
比較栽培試験を行った農家数(戸) (再掲)		4	4	
比較栽培試験を行った作物数(品目) (再掲)		5	5	
PR回数(回) (再掲)		2	1	2
エコファーマー認定農家数(人) (再掲)			8	
イエス・クリーン登録生産団体数(団体) (再掲)				1
平成14年度活動(事業)実績	上記のとおり			

4 特記事項

--